

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
FMD News Vol.46をお届けいたします。

facebook



FMD  
OWNER'S CLUB



## 8月のTOPICS

### ■FMD は症候性頭蓋内動脈解離を予測する可能性がある

先月、大手芸能事務所代表が解離性脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血によりお亡くなりになり、大きなニュースとなりました。

そこで今回は、ユネクスイーエフを使用された脳血管疾患に関する研究報告をご紹介します。

症候性非外傷性IAD(頭蓋内動脈解離)患者22名と対照として脳卒中のない頭痛患者22名に対し、FMD、PWV、ABIの測定を行った。

IAD患者群うち20名は頭痛および/または脳虚血による神経学的状態の変化を示し、2名はくも膜下出血を示した。

IADは、椎骨動脈(n = 15)、内頸動脈(n = 4)、前大脳動脈(n = 1)、上小脳動脈(n = 1)、および後下小脳動脈(n = 1)に位置していた。

IAD群と対照群の背景として、高血圧(P = 0.26)、高脂血症(P = 0.50)、糖尿病(P = 0.50)と両群間に有意差はなかった。

さらに、PWV(P = 0.8973)、ABI(P = 0.6807)と、2つの指標では、両群間に有意差は認められなかった。

しかし、FMDはIAD群で3.95%、対照群で7.3%と、IAD群で有意な低下が認められた(P = 0.0035)。

多変量ロジスティック回帰分析では、FMD(オッズ比 [95%信頼区間]: .5713 [.3858-.8461]、P = 0.0052)がIADの唯一の独立予測因子であることが示された。

また実例として、右椎骨動脈の未破裂動脈瘤を有する59歳の男性の症例を報告する。

この患者は、突然激しい頭痛を発症し、右椎骨動脈に未破裂の解離性動脈瘤を示した。

造影剤を用いた椎骨血管造影図(椎骨脳底系の3次元再構成を伴う回転血管造影図)は、V4分節に局在する不規則な形状の解離性動脈瘤を示した。右側のABIは1.24、PWVは1,421 cm /秒であったのに対し、FMDは4.1%と内皮機能の低下が認められた。

引用元：J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 Oct;27(10):2691-2695.

厚生労働省の報告によりますと、脳血管疾患は2018年の死因では4位となり10万8,165人がお亡くなりになられています。

今回ご紹介した以外にも、FMDの低下によって一過性脳虚血発作や脳梗塞のイベント発症リスクが上がるなど内皮機能と脳血管疾患に関する研究報告がなされており、脳血管疾患の分野でもさらに内皮機能の管理が重要になってくるのではないかと思います。